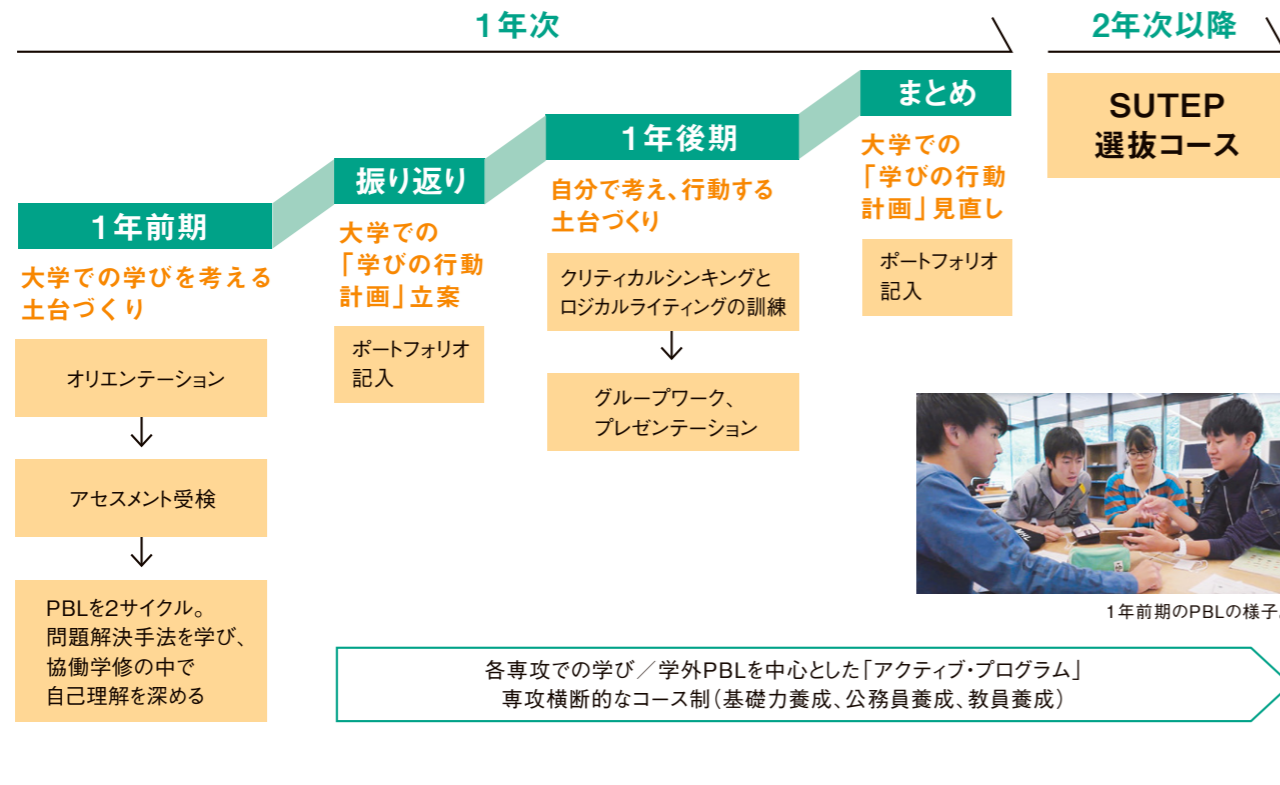




学生数/約2700人  
学部/地域共創学群(9専攻: 経済学、経営学、法学、英語、ロシア語、歴史文化、日本語・日本文化、スポーツ文化、リベラルアーツ)  
大学院/地域・文化学

**狙い** 「唯一の正解」がない時代に、自分なりの答えを導き出し、行動に移せる人材の育成。  
1年次に学ぶ意欲を高め、2年次以降の確かな成長につなげる。

## 全専攻共通プログラム SUTEP



1年前期のPBLの様子。

# 学群化、協働学修によるキャリア教育 地域に新たな価値を創出する“TOUGH”な人材の育成

## CASE STUDY

### 札幌大学

2020年度から全専攻共通の初年次教育プログラムを展開する札幌大学。学群による教育改革を進める背景と、育成をめざす人材像について聞いた。



副学長 瀧元誠樹

たきもとせいき ●2003年札幌大学文化学部講師として赴任、2012年同学部教授、2013年地域共創学群教授。2017年から現職。専門はスポーツ史・スポーツ文化論。教育学修士・体育科学博士。

### 予測困難な時代に重要な生き方を追求する学び

本学は、自らの将来像に役立つ専門性、興味関心に応じた多様な学びができるよう学部学科の垣根をなくし、「学群制」とついでに、学生のレイターマツチングの利用率は年々高まっています。自分の専攻以外のプログラムへの参加は、期待したほどは進んでおらず、実現するためにさらなる取り組みが必要となっています。学群化の目的は、専攻をつなぐ多様な学びと地域での研修、ボランティア、インターンシップ等の体験活動を組み合わせることにより、汎用的な思考力や課題解決スキルを身につけ、変化の激しい予測困難な時代に「自分はどう生きたいか」を追求することにあります。

本学は、学生の8割が道内出身で就職先も道内が大半の、地域に密着した大学ですが、たとえば、地域の活性化を話題にするとき、学生に地元の特徴について尋ねると、「何もない」と答えてきます。もしアドベンチャーツーリズムなどの視点を持ち合わせていれば、北海道ならではの豊かな資源の活用が目がいくはずですが、自分や地域をさまざまな側面から見つめ、自由な発想でその生かし方を考えてもらいたい。専攻の周辺領域に目を向け、学びを組み合わせることで自己実現してもらいたい。これぞ自分の生き方の追求であり、地域の価値創出にも欠かせません。本学がSUTEPを導入した理由は、ここにありま。

### 学生の多様性を高めて協働学修を活性化

SUTEPは専攻の枠にとらわれない協働学修を通して自分の可能性や生き方に気づき、多様な学び方について考え、必要な基礎力を養成するプログラムです。前期はPBLに、後期は思考力や表現力を高める課題に取り組みます。2020年度の新入生から全員を対象に導入しますが、すでに昨年度、選抜した学生50人を対

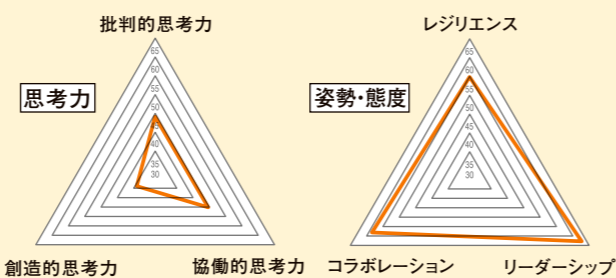
象に試行運用を実施しています。まず、受講前、学生は思考力等を測る外部アセスメントを受検します。これは、高校までの学力とは違う切り口で自己理解を促し、自分自身への思い込みを改めてもらうことが狙いです。前期のPBLでは自分の事として考えられる「新入生向けのお助けブックの制作」という課題を与え、チームで取り組んでもらいました。中には似たようなタイプのメンバーばかりでうまく機能しないチームも出てきます。そこで、アセスメントの結果を基に違うタイプの学生を加えチームを再編成したところ、活動が活性化し、自身や仲間の個性を認めあえるようになりました。このような専攻タイプが異なる者同士で学び合うことが、学生にさまざまな気づきをもたらすし、自由な発想による学びを促すと期待しています。

本学ではさらに専攻横断的なコース制による個々の学修状況・進路希望に応じた指導や、学内外でのPBL「アクティブ・プログラム」による実践的な学びを用意しています。学びの多様性から人間性を高め、豊かな発想力で、自分の生き方と地域の発展を追求する学生を、今後も育てていきます。

## 学生に聞く! 自分の強みや弱みは何か? 体験を通して自己理解を深めるPBL

「SUTEP」では前期にPBLを2サイクル実施する。1サイクル目は自分に足りないものに「気づく」機会になっている。スポーツ文化専攻の千葉拓翔さんは次のように振り返る。「小学校からずっとサッカーをやってきたので、チームで何かをするのは得意なほうだと思っていました。しかし、1回目のPBLでは、情報収集が不十分で発表の時に困ってしまう事態に。相手の発言にリアクションはしていても、自分の意見を言えてはいませんでした。2回目はメンバーチェンジがありましたが、まずは、1回目を感じた各自の反省点の共有から始めました。情報収集も職員の方へのインタビューなど、行動範囲を広げて実施しました。そのかいあって、2回目は自分たちが思っていた以上の発表ができました。活動を通して、自分からアクションを起こすことの大切さを痛感しました。この経験を学修やサッカー部の活動に生かします」。

### 千葉さんのアセスメントの結果



アセスメントで自分を客観視  
思っていたよりも思考力の結果が低く、課題だと捉えています。逆によかったのは姿勢・態度で、サッカーでの経験が生きていると感じました。

スポーツ文化専攻  
千葉拓翔さん

\*1 2年次に主専攻を選択できる制度。利用率は約30% (2019年度)  
\*2 旅行者が地域独自の自然や地域のありのまま文化を、地域の方々とともに体験し、旅行者自身の自己変革・成長の実現を目的とする旅行形態  
\*3 Sapporo University "TOUGH" Educational Program \*4 全専攻全学年共通の実践体験プログラム。テーマごとに推奨科目も示している

取材・文/本間学 撮影/新津隆将